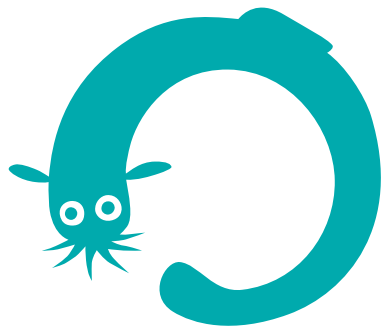


そうかわせみ、



そうかわせみ、

Vol.12



伊藤浩子  
嗜血 2



岡島弘子  
桃の夢 4



一色真理  
荷物 6



相沢正一郎

(とろろできみはきょう……) 7

嗜血

闇にひとすじ、稲妻のような亀裂が奔り、途絶えた就眠儀式の呪文の記憶も蘇った。すべてが夢であったことへの、安堵といさゝかの惜念に想ひは冷えてゆく。<sup>\*</sup>

背中のきずあとに

筆った花卉をすりこませた

帰り途にもまよい込み

迷ったまま

しわがれた声と

黒く変色した爪の

深部にふるえる

紅をさがして

もういちどだけ

(たったいちどだけ

くらい杜

老いた猟犬

渴慾という名の

月光

風が乳房を撫でて過ぎる

伸びた髪が夜を折りたたむ

ときだけがふたりを

慰めている

<sup>\*</sup> 須永朝彦『就眠儀式』より。

桃の夢

かけられた袋の中で 桃の実は母をおもう  
ぬいしろ やまおり 三つ折りぐけ  
母のかいなにつつまれて  
桃の実はみつをたくわえる

かけられた袋の中で 桃の実は父をおもう  
いちまいの型紙  
立体裁断のハサミがうごき  
桃の実は小さな宇宙にまもられる

袋をうかいして吹きすぎる風  
雨は袋をリズムよくたたき  
陽はじゆうまんした水蒸気に  
じゅっ、とアイロンをかける

袋の中までとどくのは 笛吹川の笛の音  
父を追ってこの地にすみつき  
洪水で流された母にとどけとばかり  
冴えわたる笛の音

父にも母にも会えず  
この川の深みにはまっってしまった  
笛吹き権三郎を追って  
桃の実はいのちのりんかくから じよじよにはみだし  
袋から ふくれでる

ある日袋をやぶった桃の実は  
高い空とひろい地面にとまどう  
手をのばしてもとどかない天  
足のつかない大地

荷物

夏休みがいよいよ今日まで、という日、南洋に行っているお父さんから荷物が送られてきた。開けてみると、中から現れたのは熱帯特有の果実。母が喜んで取り出し、水で洗っていく。種類だけと思つたのに、次々ばくらが内地で見たこともない果物が現れる。しかし、荷物の底に近づくにつれて、だんだん見慣れた内地の野菜になつた。母が「もう学校も始まるし、しんりも普通の子に戻らなくちゃね」と言う。最後に出てきたのは、人の腕ぐらいの太さの大根。

目が覚めると、ぼくの布団の中に、ぼくのではない腕がある。ぼくのようにやく毛の生え始めた下半身に触れたり、くすぐつたりする。とても気持ちがいい。さらに足からおなかへ、胸に……。ぼくの首の周りを締めつけるように、だんだん力をこめてくる。

(とこころできみはきょう……)

とこころできみはきょうへ空に手をさしのべ、雲にむかつて呼びかけた。つて日記に書いてたけど、きみの去来する思いそのままに流れる雲はかたちを変える——馬やかなど、鳥やちようちよ、ちぶさや水母に……。

やがて、雲はきえてしまう——きみの手のひらに絹のやわらかい肌触りや硬いうろこの感触をのこしたまま、きみがいつものように足の爪を切つたり、ベッドのしたで見つけた靴下のほこりをはらつたり、くしゃみをしたり、しゃつくりをしたり、あくびをしたり、かぼちやの煮物をたべたり、手紙の返事を書いたり、草むしりをしたり、腫れあがつた頬をぬれたタオルで冷やししながら「歯が痛い」つて日記を付けたりしてあいだに……。

そうして、きみがまぶたをとじて眠ってしまったあと、雲は日記のページのあいだからしずかに漂いだす——まるでまくらの破れ目から飛びちつた羽毛みたいに……。

同人住所

---

相沢正一郎 / 〒189-0024 東京都東村山市富士見町3-17-24

一色真理 / 〒201-0002 東京都狛江市東野川3-17-2-302

伊藤浩子 / 〒403-0016 山梨県富士吉田市松山3-4-222-201 宮下方

岡島弘子 / 〒201-0002 東京都狛江市東野川3-17-2-302

---

そうかわせみ、Vol.12 2014年7月10日発行

頒価500円

---

編集：相沢正一郎

発行：そうかわせみ、の会 〒201-0002 東京都狛江市東野川3-17-2-302 一色方

印刷：遠藤印刷 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-6-9

表紙：相沢育男

---